

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	夢門塾ゆうゆう御立西		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 1日		2025年 12月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	42	(回答者数) 36
○従業者評価実施期間	2025年 12月 1日		2025年 12月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども一人ひとりの特性理解に基づいた支援が丁寧に行われており、保護者からも「理解ある支援をしてもらっている」「安心して通所できている」といった高評価が多く見られます。個別支援計画の内容と実際の支援が一致していることが信頼につながっています。	タイムタイマーや視覚提示を活用し、子どもに分かりやすい構造化環境を整えています。活動場所を明確にすることで見通しを持って過ごせる環境づくりを行っています。	地域行事や地域交流への参加機会を増やし、社会参加の機会を広げていきます。
2	保護者との情報共有が密で、送迎時・連絡帳・コドモン等を活用した丁寧なコミュニケーションができています。家庭・学校・事業所の連携がスムーズで、共通理解に基づく支援体制が整っています。	活動プログラムが固定化しないよう、他事業所の事例も参考にしながら改善を続けています。子どもの興味や意見を取り入れた活動づくりを意識しています。	職員研修の内容を充実させ、より専門性の高い支援につなげていきます。
3	個別支援計画の作成・見直し、アセスメント、カンファレンスが適切に行われており、チーム支援が機能しています。支援の質を維持・向上させる体制が整っている点は大きな強みです。	参観日や保護者会を実施し、家族支援や保護者同士の交流機会づくりを行っています。相談しやすい関係性づくりにもつながっています。	非常勤職員への情報共有体制をさらに強化し、支援の質の均一化を図ります。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	運動スペースの狭さや死角となる場所があり、環境面での改善余地があります。	施設構造上の制約により空間確保が難しい場合があります。	空間の使い方を工夫し、安全面への配慮を強化します。
2	地域交流や地域連携の機会が少なく、広がりには課題があります。	地域交流は時間・調整面で現実的な制約があります。	地域行事参加など、無理のない範囲で地域連携を拡大します。
3	非常勤職員への情報共有が十分でない場面があり、支援の統一に課題が見られます。	非常勤職員の勤務時間帯や配置の関係で共有機会が限られます。	共有ツールや伝達方法を見直し、非常勤職員への情報共有を徹底します。